

# 1 小中学生が制服に反対している意見の分析

## ①私服を希望している意見

- ・私服も含めて、自由に自分で選びたい
- ・テストや式等は制服で、その他は私服がよい
- ・TPOに応じていけばよい
- ・制服の利点がないと思う

- ・制服の意義を伝えきれていない
- ・「決まっているから」等、自己決定感が薄い

### 【市教委の考え】

- ・制服はファッションではなく、社会性を学ぶ教材である
- ・社会で自立していくためには、場にあった服装が相手に伝える意味の重要性を理解する必要がある
- ・制服は貧富の差なく学べることの象徴、連帯感の醸成、オンとオフの切替等のメリット
- ⇒新制服導入を、制服の意義を学び、制服について考える機会と捉え、新制服と一緒に作り上げると感じられるよう進める

## ②体操服やジャージ等で充分という意見

- ・体操服やジャージが制服代りでいいと思う
- ・夏は体操服登校するので、夏服はいらない
- ・夏は制服ではなく、体操服登校であってほしい

- ・制服を否定しているわけではない
- ・使用頻度、暑さ対策等、制服のあり方を考える必要性

- ・体操服やジャージを、準制服と考えて、登下校時に幅広く認めていくのかを検討する必要がある
- ・使用頻度が少なくなる制服（例えば夏服）について、廃止を含めた検討をする必要がある
- ⇒新制服導入を、中学校制服の運用方法見直しの機会と捉え、見直しを進める

## ③機能的側面からの意見

- ・気温に合わせて調節ができない
- ・動きにくい、きゅうくつ
- ・着心地が悪い

- ・制服を否定しているわけではない
- ・機能改善を図る必要性

- ・制服の形状は、詰襟、セーラー服、ブレザータイプ、スーツタイプの4種類である
- ・ブレザー方式にした場合、形状面の違いから、首回りや前面が開放的になる
- ⇒機能面の改善については、形状、素材、縫製技術、価格等総合的に考えて、更なる検討を進める

## ④時代性からの意見

- ・女子のパンツスタイルがない
- ・可愛い、カッコいい制服が着たい
- ・自転車に乗る時に、スカートが巻き込まれる

- ・制服を否定しているわけではない
- ・LGBTQへの対応の必要性

- ・女子は、スカートとスラックスの併用とする（男子のスカートはどうすべきか、要検討）
- ・制服の形状が変わればデザインも変わるので、新制服の形状を考える中でデザインを検討する
- ⇒新制服の導入で対応可能

## ⑤価格

- ・使用頻度からみた価格の高さ
- ・購入時の価格の高さ
- ・指定シャツ等、制服以外の指定品への不満

- ・制服を否定しているわけではない
- ・価格への納得性が低い

- ・制服メーカーの考え（国産、耐久性等）により、形状を変えても、大幅な購入単価の下落は見込めない（一宮市が来年度導入する新制服のブレザーは、既存より高くなると聞いている。）
- ⇒パートナー企業を複数にしてメーカー間の競争を促すとともに、1社は、学生服メーカー以外から選択することを検討
- ・ブレザータイプにするのであれば、中に着るシャツは指定せず、色や形状のみを指定することで、汎用品から購入可能となり、トータルで見た経済的負担が緩和される可能性がある
- ・夏服の廃止など、制服の運用方法の見直しは、トータルで見た経済的負担の緩和が期待できる
- ⇒新制服導入を、経済的負担感を緩和させる機会と捉え、見直しを進める

## ※その他

- ・今回導入する制服は、市内統一とする方向で調整するとともに、学校毎の特色は、リボンの色や形態、ボタンの形態、中に着るシャツの色などで、工夫していきたい